**レガシー・マシーン N°1「ロングホーン」**

**ユニークピース**

**コレクション終了と思ったまさにその時**、MB&Fはコレクションの10周年を記念して、最初のレガシー・マシン N°1（LM1）のプロトタイプの1つをオークションに提供することを決定しました。唯一無二のこの時計は、2011年に初めて発表されたLM1シリーズが誕生した時のものです。このシリーズは2017年のファイナルエディション18ピースを最後に終了することが発表され、MB&Fチームは独創的な他の作品を目指して新たな冒険に出ることになりました。

LM1エディションはすべて販売されていたため、この重要な記念日を祝うためにはオリジナルのプロトタイプの1つしかありませんでした。この歴史的な作品は、MB&Fの歴史の中で重要な位置を占めるだけではありません。MB&Fは「ユニークピース」をほとんど生産しないため希少価値が高く、稀にしか見られないのです。

HM4コレクションの10周年（2020年）記念としてプライベートセールでMB&Fの熱心なコレクターの1人にHM4サンダーボルトのプロトタイプが販売されたのに続き、このLM1「ロングホーン」もまたプロトタイプ販売への運びとなりました。この2回目のプロトタイプ販売がMB&Fのすべてのファンにとって公平な機会となるように、MB&Fの創業者であるマキシミリアン・ブッサーは、この作品を2021年11月7日にジュネーブでフィリップスがバックス&ルッソ社と協力して開催するオークションにかけ、その収益の大部分をSave The Rhino Internationalに寄付することを決定しました。

**ロングホーンとは？**

LM1ロングホーンは、時計のデザインの中でもきわめて重要な要素の1つであるホーン（ラグ）を指します。2009年から2010年にかけての最初のデザイン会議で、長いホーンのアイデアについて検討されました。そこではストラップのスプリングバーをケースの近くに配するか、ラグの先端に配するかという問題が話し合われました。これらのオプションではいずれも、手首のサイズによってはフィット感が損なわれる可能性がありました。そのため、マックス・ブッサーとデザイナーのエリック・ジルーは、ラグを短くすることにしました。

それでもマックスはロングホーンが気になっていました。「最近のブレーンストーミングセッションで、アイデアがふと浮かんだのです。スプリングバー用の長いホーンに2つの穴を開けることを。1つはホーンの先端に、もう1つはケースの近くに開けて、ストラップの位置はユーザーが自分で決められるように。10年前になぜこれを思いつかなかったのでしょう！」

**LM1ロングホーンのその他のユニークな特徴**

LM1の多くは、ホワイトゴールドまたはレッドゴールドと、プラチナ、チタンで製造されました。LM1ロングホーンはステンレススティール製のケースを備えています。2017年の「ファイナルエディション」では、ステンレススティール製のLM1モデルは他に18ピースのみの限定で製造されました。LM1ロングホーンは、ロジウムメッキを施した地板が組み合わせられ、サブダイヤルはそのシグネチャーカラーである光沢のある白いラッカーではなく、LM1史上初めてつややかな黒が採用されています。ブルーの針との組み合わせでこの作品はさらにユニークなものになっています。シグネチャーである宙づりのテン輪を吊るすアーチ型のブリッジは、クロージングレクションで発表された最新のバージョンです。これは以前の「エッフェル塔」バージョンよりも有機的なフォルムとなっています。

**LM1のストーリーを振り返る**

モニュメンタルな中央のテン輪、卓越の仕上げを施したムーブメント、完全に独立した2つのタイムゾーン、ユニークな垂直パワーリザーブ表示、エレガントなケース。2011年に初めて発表されたLM1は伝統的な時計製造の偉大なイノベーターたちにオマージュを捧げる作品であったと同時に、紛うことなきMB&Fの立体的なマシンそのものでした。

LM1は、そのクリエーターであるMB&Fフレンド、ジャン＝フランソワ・モジョン（クロノード社）とカリ・ヴティライネンのとてつもない才能を物語っています。コート・ド・ジュネーブ装飾、磨き上げられたゴールドシャトン、内側に絶妙の角度で面取りを施して完璧に仕上げたブリッジ（手作業でなければできないもの）を備える、模範的な仕上がりのムーブメントです。このムーブメントには、唯一無二の時計であることを証明する「プロトタイプ」の文字とともに、クリエーターたちの名前が誇らしく刻まれています。

**チャリティーコネクション**

MB&Fは、この2回目となるプロトタイプ販売がすべてのファンの皆様にとって公平な機会となるように、2021年11月7日にジュネーブでフィリップスがバックス&ルッソ社と協力して開催するオークションにかけ、その収益の大部分をチャリティに寄付することを決定しました。

社内のブレーンストーミングセッションで、LM1「ロングホーン」のニックネームを、長い角で有名な絶滅危惧種であるサイに関連付けるというアイデアが出ました。MB&Fが選んだのは、ロンドンに拠点を置き、アフリカとアジアに生息する5種類のサイの保護に努めているSave The Rhino International（SRI）。SRIは、密猟や生息地の消失を食い止めることで、サイを絶滅危惧種のリストから救うことを目指しています。

Save The Rhino Internationalについて：www.savetherhino.org

（英国慈善団体登録番号：1035072）

**ユニークピースであるLM1ロングホーンのオークションは、オークションハウス「フィリップス」がバックス&ルッソ社と協力し、2021年11月7日（日）に行われます。これはMB&Fが唯一無二の作品である「HM10パンダ」を出品するオンリーウォッチ・オークションの翌日となります。**

**LM1 ロングホーン - 技術仕様**

**エンジン**

ジャン＝フランソワ・モジョン（クロノード社）とカリ・ヴティライネンがMB&Fのために特別に開発した立体オロロジカル・ムーブメント

手巻き式シングル メインスプリング・バレル

パワーリザーブ：45時間

テンワ：伝統的な調整ネジ4個を備え、ムーブメントと文字盤の上に浮かぶ特注の14mmテンワ

ヒゲゼンマイ：伝統的なブレゲヒゲ（スタッドホルダーで固定）

テンプの振動数：2.5 Hz / 18,000 bph

部品数：279

石数：23

全体に19世紀のスタイルを踏襲した最高級の手仕上げ、面取り加工を施した内部の縁（手作業で研磨）、研磨した面取り部、コート・ド・ジュネーブ装飾、ゴールドシャトン（研磨した皿穴付き）、手作業によるエングレービング

**機能**

時・分表示、独立した2つのタイムゾーンを表示する2つのダイヤル、ユニークな垂直のパワーリザーブ表示

左文字盤の時刻をセットするための8時位置の左リューズ、右文字盤の時刻合わせと巻き上げのための4時位置の右リューズ

**ケース**

ステンレススティール

「ロングホーン」ラグの2つのスプリングバー位置

サイズ：直径44mm x 高さ16mm

部品数：65

**サファイアクリスタル**

表側の高いドーム型サファイアクリスタル、裏側のサファイアクリスタルともに両面反射防止加工済み

**ストラップ&バックル**

ケースに合わせたステンレススティール製バックル付きブラウンのカーフスキン製ストラップ

**LM1 ロングホーン担当の「フレンド」たち**

**コンセプト**：マキシミリアン・ブッサー（MB&F）

**製品デザイン**：エリック・ジルー（Through the Looking Glass）

**技術・製造管理**：セルジュ・クリクノフ（MB&F）

**ムーブメント開発**：ジャン＝フランソワ・モジョン（Chronode）

**ムーブメントデザインと仕上げ仕様**：カリ・ヴティライネン

**研究開発**：ロバン・アンヌ、トマ・ロレンザト、ジョイ・ミゼレス、ジュリアン・ピーター (MB&F）

**ホイール**：ジャン＝フランソワ・モジョン（Chronode）

**テン輪ブリッジ**：バンジャマン・シニュード（AMECAP）

**テン輪**：Precision Engineering

**プレートとブリッジ**：アラン・ルマルシャン、ジャン＝バティスト・プロト、ロマン・カンプロ（MB&F）、ロドリグ・ボーム（HorloFab）

**ムーブメント手彫り**：シルヴァン・ベテックス（Glypto）

**ムーブメント部品手仕上げ**：ジャック＝アドリアン・ロシャ（C.-L. Rochat）

**ムーブメント組み立て**： ディディエ・デュマ、ジョルジュ・ヴェイジー、アン・ギテ、エマニュエル・メートル、アンリ・ポルトブフ（MB&F）

**社内機械加工**：アラン・ルマルシャン、ジャン＝バティスト・プレト、ロマン・カンプロ（MB&F）

**アフター・サービス**：トマ・インベルティ（MB&F）

**品質管理**：シリル・ファレ（MB&F）

**ケース**：パスカル・クロズ（Oréade）、MB&F

**バックル**：G&F Châtelain

**文字盤**：ハサン・シャイバ、ヴィルジニー・デュヴァル（Les Ateliers d’Hermès Horloger）

**針**：イザベル・シリエ（Fiedler）

**PVD加工**：ピエール＝アルベール・ステインマン（Positive Coating）

**ガラス**：マルティン・シュテットラー（Stettler）

**ストラップ**：Multicuirs

**化粧箱**：オリヴィエ・ベルトン（Soixante et onze）

**プロダクションロジスティックス**：ダヴィッド・ラミー、イザベル・オルテガ、アシュレイ・ムシエ（MB&F）

**マーケティングおよび広報**：シャリス・ヤディガログルー、ヴァネッサ・アンドレ、アルノー・レグレ、カミーユ・レックス（MB&F）

**M.A.D.ギャラリー**：エルヴェ・エスティエンヌ（MB&F）

**販売**：ティボー・ヴェルドンク、ヴィルジニー・マルション、セドリック・ルーセル、ジャン＝マルク・ボリー（MB&F）

**グラフィックデザイン**：シドニー・ベイ（MB&F）

**製品撮影**：マールテン・ファン・デル・エンデ、アレックス・トイスチャー

ポートレート撮影：レジス・ゴレ（Federal）

**ウェブサイト**：ステファン・バレ（Idéative）

**テキスト**：ソフィー・フュルレイ

**MB&F – コンセプトラボの誕生**

2005年に設立されたMB&Fは、世界初の時計製作専門コンセプトラボとして傑出した創造性を誇ります。ブランドはこれまでに約20種類の秀逸なキャリバーを開発し、それらをベースにして製作されたオロロジカル・マシンとレガシー・マシンは高い評価を得てきました。そして現在も、創業者でありクリエイティブディレクターでもあるマキシミリアン・ブッサーのビジョンに基づき、従来の時計作りの殻を破ってキネティックアートを思わせる立体感豊かな作品を生み出し続けています。

マキシミリアン・ブッサーは高級腕時計ブランドで15年間管理職を務めた後、2005年ハリー・ウィンストンのマネージングディレクターを辞任、MB&F（マキシミリアン・ブッサー＆フレンズ）を創立。MB&Fは、ブッサーが尊敬し、働く喜びを分かち合うことのできる才能あるオロロジカル職人を集め、先鋭的なコンセプト・ウォッチのデザインと小規模生産を行う芸術的なマイクロエンジニアリング・ラボです。

2007年、MB&Fは初のオロロジカルマシーンHM1を世に送り出しました。HM1の彫刻の様な立体的なケースと美しく仕上げたエンジン（ムーブメント）は、その後のブランド特有のオロロジカルマシーンの基準となりました。全てのマシーンは時を告げるためというより、時を語るマシーンなのです。こうして製作されたオロロジカルマシンでは、宇宙（HM2、HM3、HM6）や大空（HM4、HM9）、道（HM5、HMX、HM8）、動物王国（HM7、HM10）を探索するマシンがイメージされています。

2011年には、MB&Fはラウンドケースのレガシーマシン・コレクションを発表。これらはMB&Fにとってよりクラシカルなもので、現代的な芸術品を創作するために往年の偉大な時計製造革新者とは異なる視点で複雑機構を解釈し、19世紀の腕時計製造の卓越性への敬意を払っています。LM1 及びLM2に続いて発表されたLM101は、全て自社開発したムーブメントを搭載する初のMB&Fマシン。そして、コレクションの幅をさらに広げるレガシー・マシン・パーペチュアル、レガシー・マシン・ スプリットエスケープメントLM サンダードームの登場。2019年は史上初のレディース用MB&Fマシン「LM フライングT」の制作によりターニングポイントを迎えました。ターニングポイントを迎えました。2021年には、MB&Fはレガシー・マシン誕生10周年を記念してLMXを発表。 MB&Fは現代的で型破りなオロロジカルマシーンと、歴史からインスパイアしたレガシーマシンを交互に発表しています。

MB&Fの「F」が「フレンズ」（Friends）を表していることから分かるように、優れたアーティストや時計職人、デザイナー、様々な分野の製造業者をブランドにとっての「フレンド」と考え、協力関係を築くことはごく自然な成り行きでした。

そうした姿勢がブランドにもたらしたのが、パフォーマンスアートとコラボレーション作品という新たな2つのジャンルでした。パフォーマンスアート・モデルは、創造性豊かな社外のフレンドがMB&Fのマシンをベースにしてアレンジを加え、新たな形で表現した作品。一方のコラボレーション作品は、腕時計ではなく別のタイプのマシンで、MB&Fのアイデアとデザインに基づいて独創的なスイスのマニュファクチュールが設計、製造を行います。レペ1839と共同で製作されたクロックなど、コラボレーション作品の多くは時間を知らせるマシンとなり、リュージュやカランダッシュとのコラボレーションでは別の種類のメカニカル・アートが創作されました。

ブッサーは、こうして誕生したあらゆるマシンにその魅力を発揮できる舞台を与えるため、従来型のブティックに陳列するのではなく、他のアーティストによる多彩なメカニカル・アートとともにアートギャラリーに展示することを思いつきました。このアイデアにより、ジュネーブに最初のMB&F M.A.D.ギャラリーが設立され（「M.A.D.」はMechanical Art Devices：メカニカル・アート・デバイスの略）、その後台北、ドバイ、香港にもM.A.D.ギャラリーがオープンしました。

MB&Fがこれまでに成し遂げた革新的な成果に対しては、いくつもの権威ある賞が与えられてきました。全てを網羅することはできませんが、名高い「ジュネーブ時計グランプリ」においては5つもグランプリを獲得しています。2019年にはLM フライングTが「ベストレディースコンプリケーション賞」を獲得。2016年にはレガシー・マシン・パーペチュアルが「ベストカレンダー ウォッチ賞」を受賞。2012年にはレガシー・マシン No.1が「パブリック賞（時計ファンによる投票）」と「最優秀メンズウォッチ賞（プロの審査員による投票）」をダブル受賞。また2010年の同グランプリでは、HM4サンダーボルトで「最優秀コンセプト＆デザインウォッチ賞」を受賞。そして2015年には、HM6スペースパイレートが国際的な「レッドドット・デザイン賞」において最優秀賞である「レッドドット：ベスト・オブ・ザ・ベスト賞」を受賞しています。